
仮面ライダー ローズ

高浜ゆりえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー ローズ

【Nコード】

N2828B

【作者名】

高浜ゆりえ

【あらすじ】

私立マस्कド女学院は百年の歴史を誇る日本有数の女学院である！！特徴は（スール）システム、これは上級生と下級生が契りを結び、生活や学習の指導をするというものである。そんなマस्कド女学院に迫る異形の化け物を倒すために！今、仮面ライダーローズが立つ！！

第一部 お嬢様がみてる（前書き）

全部で四部くらいの短い構成になると思います、かなりチラシの裏な内容かもしれません…

第一部 お嬢様がみてる

私立マस्कド女学院は百年の歴史を誇る日本有数の女学院である！！

特徴は（スール）システム、これは上級生と下級生が契りを結び、生活や学習の指導をするというものである。

（そんな！！嘘でしょ?!）

それは、桜が舞い散る春の入学式の終盤近くの出来事であった。

「では、スール同士は挨拶をして下さい」

スピーカーによって拡張された先生の声が桜が舞い散る中庭に響く。中庭はとても広く、普通の中学校の校庭2つぶんほどあり、芝の大地に、池や桜の木、そして風車などが設置されていた。

元々普通の家庭で普通に育った彼女にとって、それは衝撃的でもあり、同時にプレッシャーでもあった。

「私があなたのスールの冥王寺 由良です… よろしくお願いね」

微笑む三年生…冥王寺 由良の指によって、少しだけスカートの長い新しい制服の胸ポケットに、赤い真つ赤なバラが添えられる。

「わっ！私はっ！えと！！」

胸ポケットにバラを添えられた新入生の少女はショートヘアを靡かせて頭を横に振る。

あまりの緊張のしているために、声が出なかった。

「緊張しなくてもいいのよ、大丈夫だから」

そんな少女に三年生の由良は優しく微笑む。

そして、戸惑う顔へと指を伸ばした。

（へっ?!）

自らの顔へと迫る餅のように艶やかな指を前に、少女は完全に思考が停止した。

「朝野 栗さん、よろしくね」

少女… 朝野 栗の鼻に付いていた桜の花びらをつまんだ由良は、まるで聖母のような神々しさを放つ。

「いいなあ…あの一年生」

「由良様が…私達の由良様がああ…」

「私達ファンクラブは…負けないわ！耐えるのよ」

そんな由良のファンクラブの生徒達が遠巻きに二人を見つめる。

冥王寺 由良はマスクド女学院高等部三年生にして、才色兼備の美人である。しかも、代々続く冥王寺家の令嬢ときたもんだ。

そんな冥王寺には熱烈な信者も多く、ファンクラブは自然と存在している。

「では、この後は新入生歓迎会を行います、第二体育館に移動してください」

スピーカーで拡張された声が、ぽけーっと夢見心地であった雫を現実
に引き戻す。

「じゃあ、行きましよう雫さん」

由良はそんな雫を見つめてクスリと笑い、歩き出した。
はしたくない速さで、且つしなやかに。

まるで、真紅の薔薇のように――

「はっ！はい！」

微笑む由良と、緊張する雫。

そんな感じで、私立マスクド女学院の入学式は華やかに終了し、新
人生歓迎会が行われようとしていた。

続く新人生歓迎会が始まろうとしていた…

時を同じくして――

私立マスクド女学院の約20キロメートル敷地内の最果ての、教会
の中。

その巨大な教会の中で、一人のシスターが恐怖に脅える。

「かつ！神よ！！」

晴天のはずであつた、しかし教会の中は闇に包まれている。
闇の中で、凶器のように鋭い赤い瞳が煌めき、舌なめずりをする音が響く。

『ギユアイアアアッ！！！！』

異形の化け物が、十字架を背にしたシスターを睨みつけて唸りをあげる。

人の形に近いその化け物は頭に触角のようなものが生えており、体中は紫色の鱗で覆われている。

そして、その化け物はベトベトとした粘液が滴る右腕を振り上げた。鋭い爪が、闇の中で白く輝くー

「そこまでよ！！」

一喝ー

現れたのは、神ではなかった。ボタンという音とともに、巨大な教会の中の扉が開かれる。

「あつ…あなたは…」

恐れおののいていたシスターが涙目のまま振り向く。

『グガ…ダレダ… ギザマハ！！』

異形の化け物は、人の言葉を発して瞳を見開く。

舞い散る春の桜を背に、人の形をしたシルエツトが、闇に包まれた教会の中へと歩いてくる。

「… 全ての命を守るため… ！」

騒然とした教会の中に、シルエットが発したと思われる声が響く。

「… 全ての悪を倒すため… ！！」

その声は淡々としていたが、どこか決意のようなものが節々から滲み出ている。

シルエットの首に巻かれた真紅のマフラーが、桜を散らして風に靡く。

『グギユオモ?!』

驚愕し、瞳を見開かせる化け物。

人の形をしたシルエットは… 緑色の全身と真つ赤な複眼もつ、戦士であった。戦士はゆっくりと右腕を振り上げ、左手を腰のベルトの横に添えた。

「天は、人の上に人を作った！」

そしてステンドグラス越しに天を見上げ終わると、その戦士は赤い複眼で化け物を威嚇する。

「それが私だ！仮面ライダー ローズ！」

凜々しい叫び声が教会に響く。

緑色の戦士の赤い瞳が輝き、その左手でベルトの横部分に装備されたグリップを引き抜く。

「イバライザー！」

引き抜かれたグリップからは、荊のような鞭が現れ、無数の鋭い棘が教会の床を這った。

『ググッ！！ゴロスッ！！』

化け物は両腕を振り上げて走り出した。

しかし、その動きは緑色の戦士に既に見切られていた。

「でえいッ！！」

一閃――

緑の一撃が、闇を裂く。

砕け散る化け物、そして謎の戦士はイバライザーを腰のベルトに再び戻し、教会の外へと歩き出した。

「あっ……あなたは……」

驚くシスターが、謎の戦士を追いかけようとする。

「……」

謎の戦士は、少しだけ振り返り、再び歩き出した。

桜が舞い散る、敷地内を……

今、マスクド女学院を舞台に仮面ライダー　ローズの戦いが始まる

！！

第一部 お嬢様がみてる（後書き）

この作品の世界観は…そう

アレです、すみません。

本当にすみません。

でも皆さん、仮面ライダーローズをよろしくね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2828b/>

仮面ライダー ローズ

2010年10月10日22時44分発行